

小貝川フラー フェスティバル

5月24日には、ホーミックふれあい公園にて「小貝川フラーフェスティバル」が開催されました。

会場では約200万本のポピーが満開を迎え、色鮮やかな花々が来場者を魅了しました。

ステージでは、東部中学校吹奏楽部による演奏や、伝統舞踊「おオ」が披露されるなど、多彩なパフォーマンスで会場を盛り上げました。

また、地元の特産品を求める人々で会場は活気に満ち、心温まる交流の輪が広がりました。家族連れや友人同士で散策を楽しむ姿も多く見られ、終日穏やかな雰囲気に包まれていました。



多賀谷時代まつり

4月26日、「第17回多賀谷時代まつり」が開催されました。本イベントは、下妻の歴史を今に伝え、多賀谷氏の歴史を振り返り、歴史文化を再発見することを目的としています。

会場には市内外から延べ6,000人もの来場者が訪れ、会場は熱気に包まれました。

ステージでは、出陣太鼓や下妻一高応援団による迫力ある演舞が会場を盛り上げ、川越藩火縄銃鉄砲保存会による古式火縄銃演武では、迫力ある銃声が響き渡り、観客からは大きな歓声と拍手が沸き起こりました。

実行委員長の川澄次男さんは、「今年は、近隣自治体と協力して祭りを盛り上げることができた。子どもたちの武者行列への参加なども、大変嬉しく思う。下妻の歴史を物語るこの祭りを、皆様と共に末永く継承していきたい。」と語りました。



5月17日、鬼怒フラーラインにて「花とふれあいまつり」および「鬼怒川流域交流Eポート大会」が同時開催されました。

「花とふれあいまつり」では、約50万本のポピーと、春風に揺れる色とりどりのこいのぼりが織りなす美しい景観の中、市民団体による華やかなステージ発表や地元特産品の販売が行われました。

また、会場を盛り上げた「鬼怒川流域交流Eポート大会」では、白熱したレースが繰り広げられ、訪れた人々からも選手たちに声援が送られ、歓声と笑顔に包まれる一日となりました。

家族連れや友人同士で訪れる姿も多く見られ、初夏の訪れを感じながら思い思いの時間を楽しんでいました。

花とふれあいまつり。 鬼怒川流域交流Eポート大会

